

【1】 中学部教育の基本的な考え方と教育課程の編成

1 中学部教育の基本的な考え方

中学部では全ての生徒の社会的自立を目標に、生活していくのに必要だと思われる力を見通し、今まさに指導の時期だと思われる内容を選んで指導してきた。学習内容とともに、一人ひとりの生徒に適した指導の方法等も検討し、生徒の力が確実に向上することをめざしてきた。こうした取り組みを重ねることで、生徒は身辺処理の力、社会性、表現力等少しずつではあるが、身につけてきていることを、コミュニケーションに視点をあてた前研究のなかでも確認している。

現在及び将来にわたり、生活は自分自身が主体となる楽しくて豊かなものでありたい。そういう生活のなかでこそ、生きることへの意欲や、生き生きとした積極的な姿勢が生まれてくるものだと思われる。生徒の日々の学校生活に目を向けた時、教師が意図的に設定した学習場面では、生徒はそれなりに活動を楽しみ、生活に必要な力も僅かながら身につけてきている。しかしながら、学習場面を離れると、何をして過ごしたらいいのかわからない、したいことが何かみつからない。家に帰ると何をすることもなく、無目的に過ごしているという姿がある。また、楽しんでいると思われる場合も、パターン化されていて、拡がりがない等自らが生活の主体となって楽しく、豊かに過ごしているとは言えない実態が、たくさん見られる。意欲や積極的な姿勢が、楽しく充実した生活の中で培われるものであるとするならば、今までの設定された学習場面での楽しさは、次の楽しさや意欲を生み出す楽しさに、十分にはなり得ていないということになりはしないか。そこで、これまでの研究実践を「生活を自ら楽しむ力を育てる」という観点で見直し、新たな切り口で授業づくりに取り組みたいと考えた。この授業づくりは、自らが生活の主体者となり、楽しく豊かに過ごす子どもの像へのアプローチを意図したものである。

2 「生活を楽しむ」の基本的な考え方

(1) 「生活」とは

生活は、この世に誕生してから後の長い期間にわたって展開されるもので、生活する場も学校・家庭・社会と幅広い範囲にわたる。我々は、生徒が学校や、卒業後の人生の大半を占める家庭生活や社会生活において、楽しく豊かに過ごす姿を目標としている。

中学部で、自分の思いが活かされ、充実した楽しい生活を過ごし、さらに自分から楽しさを求めて、意欲的に生活しようとする力を育てることが、将来の豊かな人生につながると思え、現在の生活を充実していくことに、指導の重点をおくことにした。実践にあたっては1年間あるいは中学部3年間の学校生活を見通した上で、1単位時間の授業づくりに視点をあて、生活している今・その時・その場を大切にしたいと考えている。

(2) 「楽しむ」とは

楽しみ方には今その時を楽しむ楽しみ方から、先を見通した楽しみ方までいろいろある。また、楽しむ姿にも個人差があるが、いずれの場合にも共通している点は、
ア 気持ち安定している……パターン化された行動や癖、自分の世界にはいつている等も楽しむ姿として認めたい。

イ 没頭している……真剣な表情・柔らかい表情・笑顔・無言・自然な会話等、表れ方はそれぞれ違うが、やはり楽しんでいる姿ととらえたい。

ウ 自主的に取り組んでいる……取り組みのどこかの部分では支援を受けていることがあっても、その活動には自分の意思が働いている。

この状態は意欲の高まりや関心の拡がり、喜びの膨らみ等を生み出し、さらに次の意欲につながっていく。気持ちが充実し、内面的な高まりが自覚されるこの状態が、楽しむということではないかと考える。

(3) 中学部のめざす「生活を楽しむ」姿とは

上記(1)(2)の考え方から、中学部のめざす「生活を楽しむ」姿を、①毎日の生活のなかで、自ら行動を起こし、行動すること自体に没頭し、またやりたいという次の意欲を持つ。②機会を見つけていろいろなことに挑戦してみようと行動を起こしたり、人と関わりを持とうとしたりする。この二つの視点が含まれた姿として定義づけた。

中学部で「生活を楽しむ」姿を求めることによって、生活することへの自信や期待が高まり、それが将来の豊かな人生のエネルギーの源となるにちがいない。私達はその実現をめざして、実践を積み重ねたい。

(4) 「生活する力」と「生活を楽しむ力」

・「生活する力」とは、

生活していくために必要な力であり、基本的には、学習の繰り返しの中で獲得していくものととらえている。めざすレベルがある程度はっきりしており、できる・できないの評価も比較的明確である。しかし努力しても、障害等によっては獲得できない力もある。本人の意思や意欲が、その力を獲得する段階では大きく影響を与えるが、具体的な生活の場面では、意思や意欲よりも、力としての機能が強く働く。この力を獲得する過程は、ややもすれば学習や訓練の色彩が強くなり、楽しさが味わえないこともある。しかし、個に応じた題材選びや工夫によって、主体的に楽しく学習できるものとする。

・「生活を楽しむ力」とは、

できる・できないということよりも、できることをやりたいと思う方法で行って、自ら楽しもうという主体的な姿勢である。技能的な部分では、支援を受けなければ生活できなくても、自分の生活に楽しみを持って生きている姿には、豊かさや暖かさがある。しかし楽しみを味わい、その楽しみを拡げていくためには、いろいろな力が必要である。たくさんの力を身につけることが、楽しさを拡げ、深めるという側面も持つ。見方を変えれば、生活に楽しさを覚えることは、取り組む生活それ自体の幅を広げ、必要な力を自然に身につけていくことである。

「生活する力」と「生活を楽しむ力」の関係について、我々はこのようにとらえ、研究実践するなかで、いずれの力をも高めることを目標にした。

テーマの意図が、あくまでも生徒が生活の主体者となり、真に生活を楽しんでいるという点にあることから、アプローチの切り口が「生活を楽しむ力」の育成におかれているのは、言うまでもない。

3 教育課程編成の考え方

中学部は、表-1に示す週時程表によって実践している。教育課程は生活単元学習を中核にして編成しているが、教育内容や指導形態を精選して取り入れる等、人格形成に資する組み立てを工夫し、指導に当たっている。以下、教育課程編成の考え方を述べる。

- ① 生活単元学習は題材選定やグループ編成等に工夫をこらし、生徒が心から楽しめる授業づくりに努める。いずれの授業においても、教師は待つ・任せるという姿勢を基本とし、生徒の思考や行動のペースを大切にして、ゆったりとした学習が展開できるように配慮する。また、学習で得た生活を楽しむ力を、実生活の中に生かし応用できるチャンスを、できるだけたくさん作る。更に、家庭や地域との連携を大切にする。学習の基本的な流れを「自分のめあてを決める→取り組む→自分で評価する」とする。
- ② 課題学習の時間を、毎日20分間帯でとり、継続的に取り組んでいく。

一昨年より学級担任が個々の生徒の課題を見すえ、毎日継続的に取り組むことにした。課題学習の考え方も基礎学力の習得のみでなく、楽しんで取り組むように工夫し、養護・訓練的な課題も含めた取り組みをしていく。

- ③ 作業学習を4時間設定し、作業を通しての人格形成をめざす。

一昨年よりコース制とし、①作業経験の拡大②作業態度の習得③遊びと仕事の場の区別④意欲と自信の喚起⑤趣味の拡がりや余暇利用という5つのねらいを明確にし、作業学習への取り組みを充実させたものである。

コース制とはいえ、合同作業や校内作業実習も設け、「働く」「作る」といった人間性の基盤作りに関わるものが中心である。

- ④ 性教育・同和教育を計画的に取り組む。

一昨年より、人権を尊重した教育をより一層進めるために、社会生活能力等を考慮して学部全体を縦割りグループに編成して指導している。内容により、学級単位でも指導する。

- ⑤ 8時50分からの55分間を朝の活動とし、課題学習と朝の会で構成する。個によっては身辺自立（衣服の着脱）が発達上の最優先課題になるという考え方から、始業前15分間を含む時間を1単位とし、毎日の継続が確かな力を育てることを確認する実践である。

- ⑥ 実社会との関わりを大事にし、実践的な力の育ちをめざす。

学習場所は可能なかぎり実社会にも広げる、そのためにも校外学習や校外作業実習等を積極的に計画し、本物でこそ楽しむ力が育てられることを確信し、大切に育てる。

(今崎良治)

表-1 中学部週時程表

時 曜	月	火	水	木	金	土
8:50	登 校					
9:05	朝 の 活 動					学 部 活
	学 級 活	更 衣 ・ 課 題 学 習 ・ 朝 の 会				
9:45	体 育	音 楽	体 育	リ ズ ム	音 楽	生 単
10:30	長 休 憩					
10:45						生 単
11:30	生 単	生 単	生 単	生 単	生 単	帰 活 動
12:10	給 食 準 備 ・ 給 食 ・ 片 付 け					下 校
12:45	歯 みが ぎ ・ 昼 休 憩					
13:10	清 掃	清 掃				
13:30	作 業	ク ラ ブ	課 題	美 術	作 業	
14:10	作 業	委 員 会	帰 活 動	美 術	作 業	
14:55	着 替 え		下 校	着 替 え		
15:10	帰 り 活 動			帰 り 活 動		
15:30	下 校			下 校		